



もじや髭



小泉孝雄

もじや髭

AIICSI7A 小泉孝雄

は支度をすませると、扉をあけてどこかへいってしまいました。

田畑をこやし、自然からたくさんのめぐみをうけていた、そう遠くないころの、お話しをしましょう。

「ふふ」

「きやつきや」

「へへへ」

「ははは」

ある山間に、しつそな小屋がぼつんとたっており、そこにはおじいさんが一人、

住んでおりました。その小屋はどこかさ

かしや……くしや……。かしや、くしや……。

びしい様子で、あたりをみわたしても、

人間はもちろん、たぬきやきつね、すず

めといった動物たちもみつきりません。

さて、そんな人里離れたこやでおじいさ

んはどうやって生活しているのでしょう。

おじいさんはひじかけ椅子にふかくこ

しかけ、キセルをふかしていました。す

っかり白くなってしまった髪ともじや髭

が、風をうけて、けむたそうに身をよじ

ります。おじいさんは、そんなことお

まいなしにキセルをふかしつづけていま

したが、何か思い出したのでしょうか、

ゆつくりとたちあがり、お日様にむかっ

てのびをしました。そして、おじいさん

「しつしづかに」

ひそひそひそ

「またきょうも」

「いやだよ」

「こわいよ」

くしやつ、くしやつ。

かさ、かさ。

「しつしづかに」

もじや髭

AIICSI7A 小泉孝雄

は支度をすませると、扉をあけてどこかへいってしまいました。

田畑をこやし、自然からたくさんのめぐみをうけていた、そう遠くないころの、お話しをしましょう。

「ふふ」

「きやつきや」

「へへへ」

「ははは」

ある山間に、しつそな小屋がぼつんとたっており、そこにはおじいさんが一人、

住んでおりました。その小屋はどこかさ

かしや……くしや……。かしや、くしや……。

びしい様子で、あたりをみわたしても、

人間はもちろん、たぬきやきつね、すず

めといった動物たちもみつきりません。

さて、そんな人里離れたこやでおじいさ

んはどうやって生活しているのでしょう。

おじいさんはひじかけ椅子にふかくこ

しかけ、キセルをふかしていました。す

っかり白くなってしまった髪ともじや髭

が、風をうけて、けむたそうに身をよじ

ります。おじいさんは、そんなことお

かまいなしにキセルをふかしつづけていま

したが、何か思い出したのでしょうか、

ゆつくりとたちあがり、お日様にむかっ

てのびをしました。そして、おじいさん

「しつしづかに」

ひそひそひそ

「またきょうも」

「いやだよ」

「こわいよ」

くしやつ、くしやつ。

かさ、かさ。

「しつしづかに」

もじや髭

AIICSI7A 小泉孝雄

は支度をすませると、扉をあけてどこかへいってしまいました。

田畑をこやし、自然からたくさんのめぐみをうけていた、そう遠くないころの、お話しをしましょう。

「ふふ」

「きやつきや」

「へへへ」

「ははは」

ある山間に、しっそな小屋がぼつんとたっており、そこにはおじいさんが一人、住んでおりました。その小屋はどこかさ

びしい様子で、あたりをみわたしても、

かしや……くしや……。かしや、くしや……。

人間はもちろん、たぬきやきつね、すずめといった動物たちもみつきりません。

「しっしっずかに」

さて、そんな人里離れたこやでおじいさんはどうやって生活しているのでしょうか。

ひそひそひそ

おじいさんはひじかけ椅子にふかくこしかけ、キセルをふかしていました。す

「またきょうも」

「いやだよ」

「こわいよ」

くしやつ、くしやつ。

かさ、かさ。

ります。おじいさんは、そんなことおかまいなしにキセルをふかしつづけていました。何か思い出したのでしょうか、ゆつくりとたちあがり、お日様にむかっ

「しっしっずかに」

もじや髭

AIICSI7A 小泉孝雄

は支度をすませると、扉をあけてどこかへいってしまいました。

田畑をこやし、自然からたくさんのめぐみをうけていた、そう遠くないころの、お話しをしましょう。

「ふふ」

「きやつきや」

「へへへ」

「ははは」

ある山間に、しっそな小屋がぼつんとたっており、そこにはおじいさんが一人、住んでおりました。その小屋はどこかさ

びしい様子で、あたりをみわたしても、

かしや……くしや……。かしや、くしや……。

人間はもちろん、たぬきやきつね、すずめといった動物たちもみつきりません。

「しつしずかに」

さて、そんな人里離れたこやでおじいさんはどうやって生活しているのでしょう。

ひそひそひそ

おじいさんはひじかけ椅子にふかくこしかけ、キセルをふかしていました。す

「またきょうも」

「いやだよ」

「こわいよ」

くしやつ、くしやつ。

かさ、かさ。

ります。おじいさんは、そんなことおかまいなしにキセルをふかしつづけていました。何か思い出したのでしょうか、ゆつくりとたちあがり、お日様にむかっ

「しつしずかに」

もじゃ髭

<http://p.booklog.jp/book/68300>

著者 : takaokoizumi

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/takaokoizumi/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/68300>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/68300>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ